

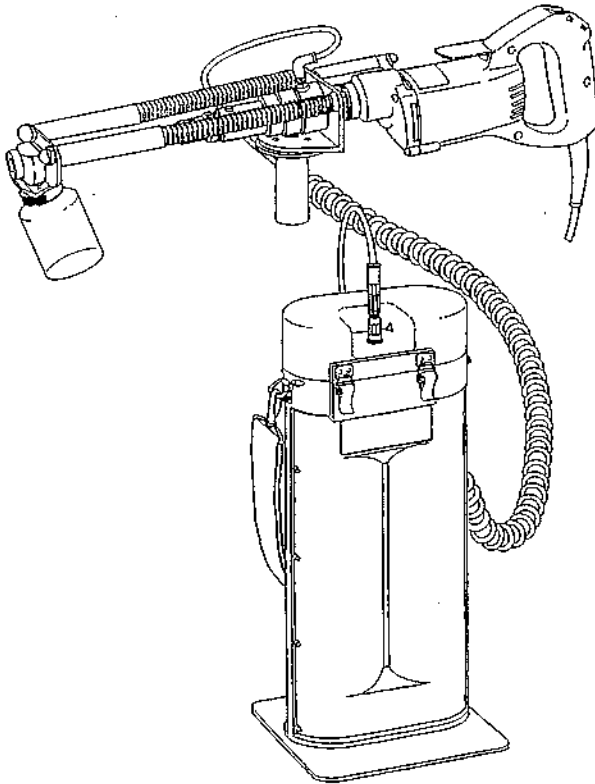
ORIENTED

スーパードリル

OJ-X1

SUPER DRILL

取扱説明書



このたびは オリエンテック スーパードリル (OJ-X1) を
お買い上げ賜り厚くお礼申し上げます。

ご使用に先だち、この取扱説明書をよくお読みいただき本機の性能を充分ご理解の上で、適切な取り扱いと保守をしていただいて、いつまでも安全に能率よく、お使いくださるようお願い致します。なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。

注意文の **△ 警告** **△ 注意** **注** の意味について

ご使用上の注意事項は **△ 警告** と **△ 注意** **注** に区分してはいますが、それぞれ次の意味を表します。

△ 警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

△ 注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が重傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、**△ 注意** に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

注 : 製品および付属品の取扱い等に関する重要なご注意。

発売元：株式会社 **オリエンテック**

〒341-0024 埼玉県三郷市三郷2-2-11 中村ビル2階
TEL. 048-952-9900 FAX. 048-952-9910

製造元：東邦金属工業株式会社

〒132-0031 東京都江戸川区松島4-37-6
TEL. 03-3654-8911

安 全 上 の ご 注 意

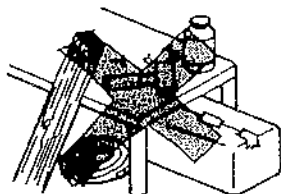
- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠ 警告

1. ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。

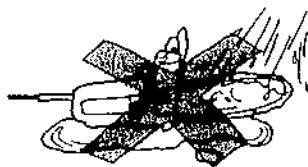
2. 作業場は、いつもきれいに保ってください。

- ・ ちらかった場所や作業台は、事故の原因となります。



3. 作業場の周囲状況も考慮してください。

- ・ OJ-XIは、雨中で使用したりOJ-XIが濡れるような状況で使用しないでください。
- ・ 作業場は充分に明るくしてください。
- ・ 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。



4. 感電に注意してください。

- ・ OJ-XIを使用中、身体をアースされているものに接触させないようにしてください。
(例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠)



⚠ 警告

5. 冷却剤に関する注意事項
 - ・タバコを吸いながらの作業は絶対にしないでください。
 - ・火気のある所では使用しないでください。
 - ・冷却剤にライターやマッチなどの火を近づけないでください。
 - ・エアゾール缶は直射日光を避け、風通しのよい日陰に保管し40℃以上となるような所には長時間保管しないでください。
 - ・冷却剤は火に向けて噴射しないでください。
 - ・エアゾール缶は火中に投げ入れないでください。
 - ・冷却剤は人に向かって噴射しないでください。
 - ・万一飲み込んだ場合は、水を飲ませる等の処置をし、また、目に入った場合はこすらず水道水で充分洗い流してください。もし、異常を感じた場合は医師に相談してください。
6. 子供を近づけないでください。
 - ・作業員以外、ドリルやコードに触れさせないでください。
 - ・作業員以外、作業場へ近づけないでください。
7. 使用しない場合は、きちんと保管してください。
 - ・乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または錠のかかる所に保管してください。
8. 無理して使用しないでください。
 - ・穿孔スピードが遅いからといって無理に力を入れたりしないでください。OJ-XLの能力に合った速さで作業してください。
9. 機種に合ったビットを使用してください。
 - ・OJ-XLは、9.2φ以下のビットを使用してください。
 - ・指定された用途以外に使用しないでください。
10. きちんとした服装で作業してください。
 - ・だぶだぶの衣服やネックレス等の装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがありますので着用しないでください。
 - ・屋外での作業の場合は、ゴム手袋と滑り止めのついた履物の使用をお薦めします。
 - ・長い髪は、帽子やヘアカバー等で覆ってください。
11. 保護メガネを使用してください。
 - ・作業時は、冷却剤が目に入らないよう保護メガネを使用してください。
12. コードを乱暴に扱わないでください。
 - ・コードを持ってOJ-XLを運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
 - ・コードを熱、油、角のところがった所に近づけないでください。
13. 無理な姿勢で作業をしないでください。
 - ・常に足元をしっかりとらせ、バランスを保つようにしてください。

⚠ 警告

14. スーパードリルは、注意深く手入れをしてください。
 - ・付属品の交換は、取扱説明書にしたがってください。
 - ・コードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店または、弊社に修理を依頼してください。
 - ・延長コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合は交換してください。
 - ・握り部は、常に乾かしてきれいな状態に保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
15. 次の場合は、スーパードリルのスイッチを切りプラグを電源から抜いてください。
 - ・使用しないとき、または修理するとき。
 - ・ビット等の付属品を交換する場合。
 - ・その他危険が予想される場合。
16. 調節キーやレンチ等は、必ず取り外してください。
 - ・電源を入れる前に、調節に用いたキーやレンチ等の工具類が取り外してあることを確認してください。
17. 不意な始動は避けてください。
 - ・電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
 - ・プラグを電源に差し込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
18. 屋外使用に合った延長コードを使用してください。
 - ・屋外で使用する場合、キャップタイヤコードまたは、キャップタイヤケーブルの延長コードを使用してください。
19. 油断しないで充分注意して作業を行ってください。
 - ・OJ-XIを使用する場合は、取扱方法、作業の仕方、周りの状況等充分注意して慎重に作業してください。
 - ・常識を働かせてください。
 - ・疲れている場合は、使用しないでください。
20. 損傷した部品がないか点検してください。
 - ・使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか充分点検し正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。
 - ・可動部分の位置調節、取付け状態、その他運転に影響を及ぼす全ての箇所に異常がないか確認してください。
 - ・損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

⚠ 警告

21. 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。
 - ・本説明書および、弊社カタログに記載されている付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの原因になる恐れがありますので使用しないでください。

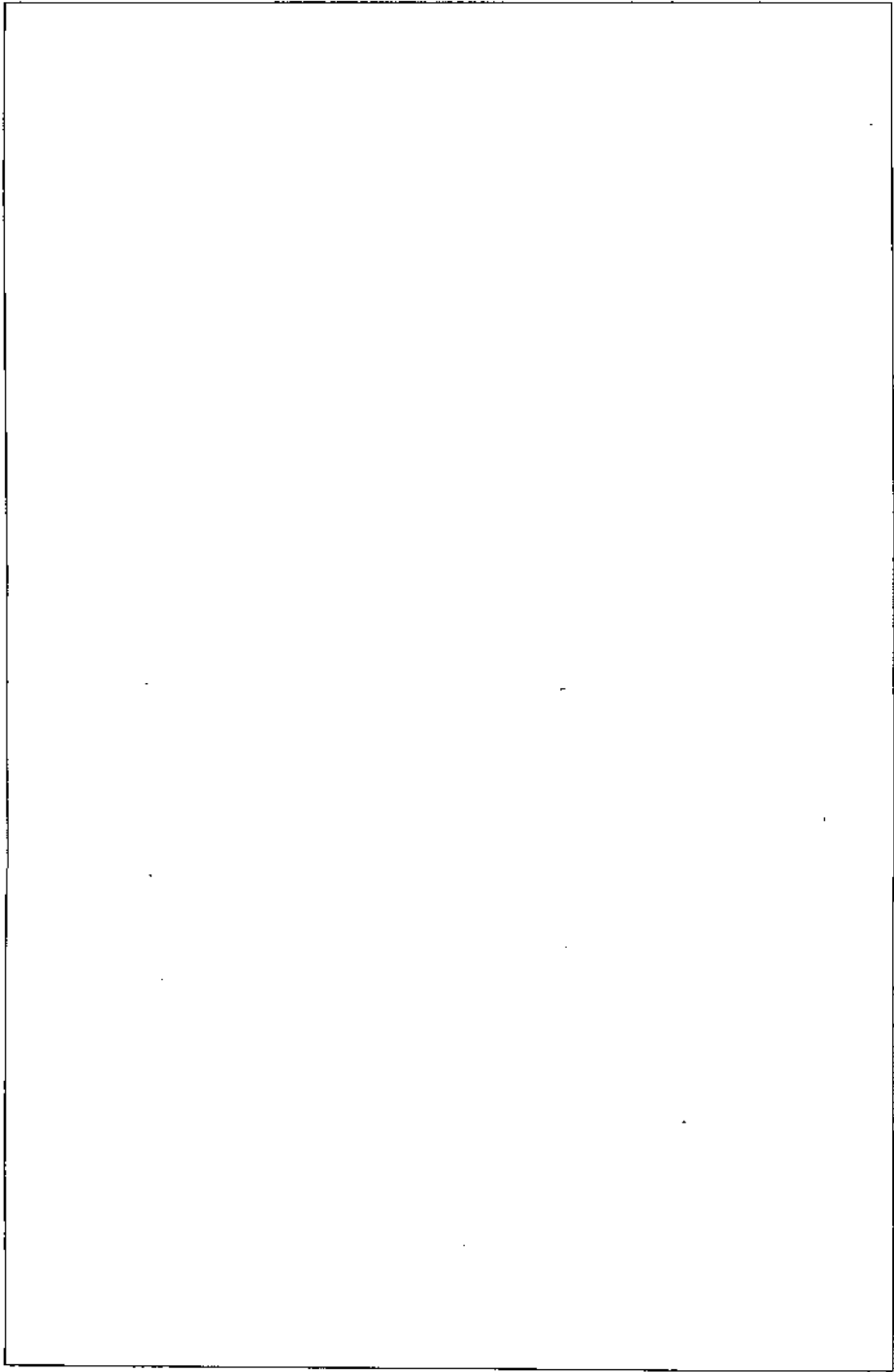
22. OJ-XIは改造しないでください。
 - ・修理は、必ずお買い求めの販売店または、弊社にお申し付けください。
 - ・修理の知識や技術のない方が修理しますと、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因となります。

スーパードリル安全上のご注意

OJ-Xiの動力源として使用されている電動ドリルについてさらに、次に述べる注意事項を守ってください。

⚠ 警告

1. 使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。
 - ・表示を越える電圧で使用すると、回転が異常に高速となり、けがの原因となります。
2. 作業する箇所に、電線管・水道管やガス管などの埋設物がないことを作業前に充分確かめてください。
 - ・機械が埋設物に触れると、感電や漏電・ガス漏れの恐れがあり、事故の原因になります。
3. 使用中は、振り回されないよう本体を確実に保持してください。
 - ・確実に保持していないと、けがの原因になります。
4. 使用中は、回転部に手や顔などを近づけないでください。
 - ・けがの原因になります。
5. 使用中、本体の調子が悪かったり、異常音が出たときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店、または弊社に修理を依頼してください。
 - ・そのまま使用していると、けがの原因になります。
6. 誤って落としたり、ぶつけたときは、ビット・ボディ・本体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
 - ・破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。



⚠ 注意

1. 工具類（ビット・ボディ）や付属品は、取扱説明書に従って確実に取り付けてください。
 - ・確実にしないと、はずれたりし、けがの原因になります。
2. 使用中は、軍手等巻き込まれる恐れがある手袋を着用しないでください。
 - ・けがの原因になります。
3. 冷却剤ポンペは空の状態で使用しないでください。
 - ・ビットが発熱し使用できなくなります。
 - ・この場合やけどの原因になります。
4. 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。また、コードを引っかけたりしないでください。
 - ・材料や本体などを落としたときなど、事故の原因になります。
5. 回転させたまま、台や床などに放置しないでください。
 - ・けがの原因になります。

注

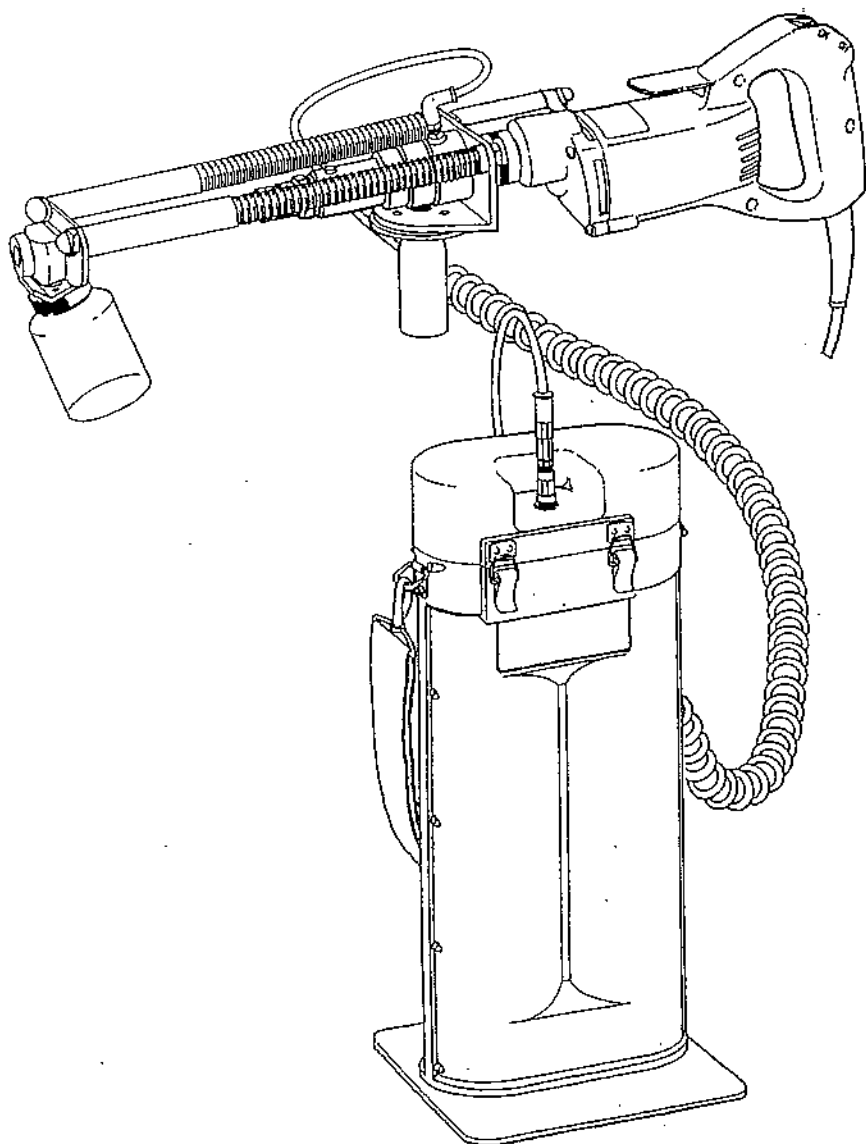
- ・電源が離れていてつなぎコードが必要なときは、機械を最高の能率で故障なくご使用いただくために十分な太さのコードをできるだけ短くお使いください。

使用できるコードの太さ（公称断面積）と最大長さの関係

コードの太さ（導体公称断面積）	コードの最大長さ
0.75mm ²	20m
1.25mm ²	30m

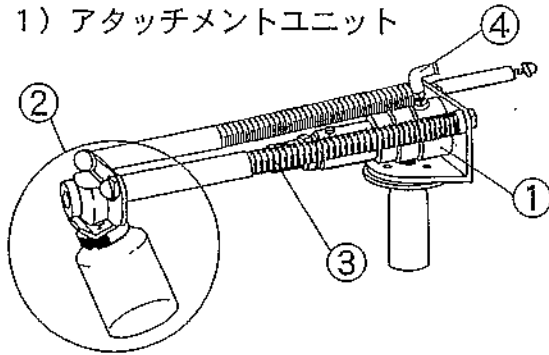
- ※ 最後に、これまでの記載注意事項につきましては、スーパードリルを安全に、また正常に使用していただくための項目です。スーパードリルにセットされた電動ドリルを他の目的に使用し事故が発生しても弊社としては補償出来ません。
- ※ スーパードリル専用の冷却剤以外を使用し、故障または、トラブルを生じても弊社としては補償出来ません。

各部の名称 (OJ-X1)

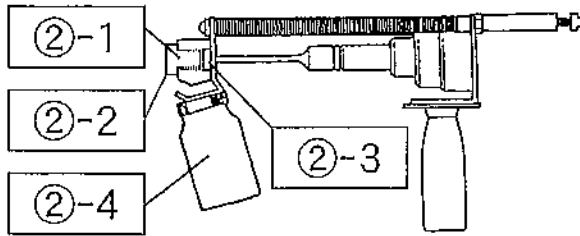


組立全体図

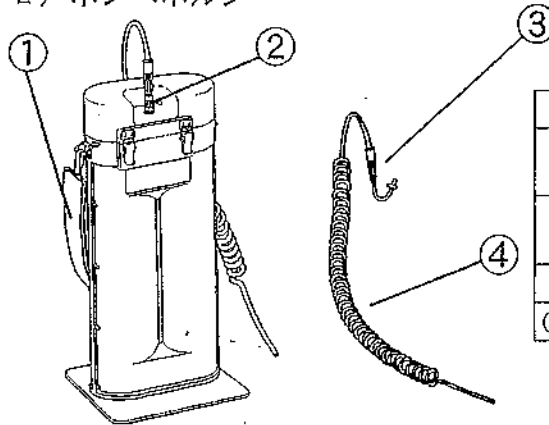
1) アタッチメントユニット



部 品 名	
①	自動切換弁
②	回収ホルダーセット
②-1	ダストシール
②-2	シールスポンジ
②-3	受けピース
②-4	ボトル
③	スプリング
④	ノズルプッシュ組立

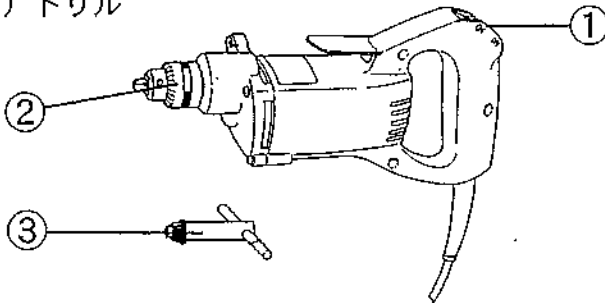


2) ポンベホルダー



部 品 名	
①	吊リヒモ
②	マイクロカップリング ソケット
③	マイクロカップリング プラグ
④	スパイラルチューブ
③+④	スパイラルチューブ組立

3) ドリル



部 品 名	
①	スイッチ
②	チャック
③	チャックキー

組立方法

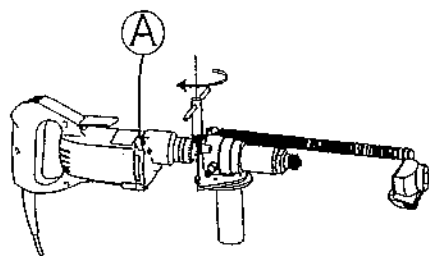
⚠ 警告

点検整備の際には必ずスイッチを切り、プラグを電源から抜いてください。

・プラグを電源につないだまま行なうと、感電や事故の原因になります。

1) アタッチメントユニットとドリルの組立

先端（ダストホルダー）を上側にして組み立ててください。

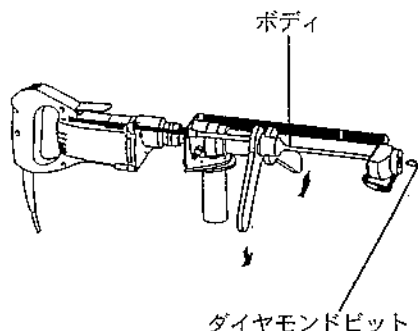


- ①ドリルチャック部をゆるめてください。
- ②アタッチメントユニットの回転軸をドリルチャック部へ、連結ボルトをドリル部に差し込んでください。
- ③ドリルに袋ナットを取り付け手で締めてください。
- ④ドリルチャック部を手で締めてください。
- ⑤ドリルの袋ナットをスパナ・モンキー等で締めてください。
- ⑥チャックキーでチャックを締めてください。
(※必ず3ヶ所均等に締めてください。)

注

・チャックキーは所定の位置に正しく取り付けてください。

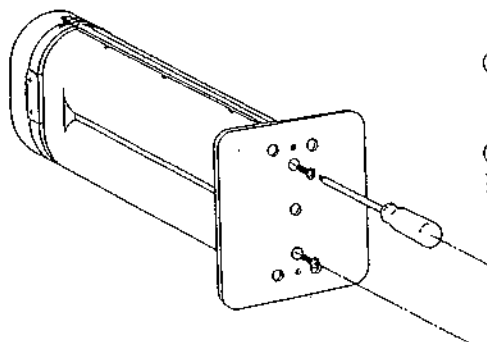
2) ボディ、およびビットの取り付け方



- ①ダストホルダーの受けピース部にボディの先端を差し込む。
- ②自動切換弁のネジ部にボディをネジ込み、スパナでしっかり締め付けてください。
- ③ダストホルダーを押し下げて、ダイヤモンドビットを取り付けてください。

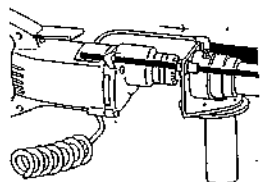
※最後までしっかりネジ込んでください。

3) ポンベホルダーの組立

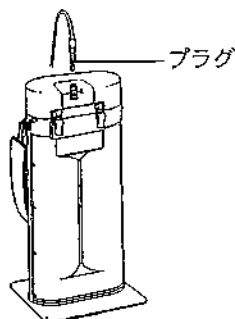


- ①底板を取り付ける。
本体の底部に附属のネジ2本で固定する。
- ②吊りヒモをかける。
※スパイラルチューブはドリルのアタッチメントの組立が完成した後で取り付けますので、まだ取り付けないでください。

4) ポンベホルダーとの接合



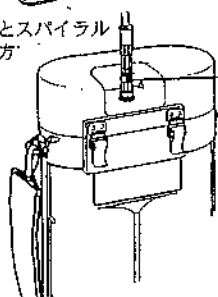
- ①スパイラルチューブを自動切換弁のジョイント部にしっかりと差し込む。



- ②スパイラルチューブの先端のプラグをポンベホルダーのソケットに差し込む。
※必ず①、②の順で作業を行ってください。

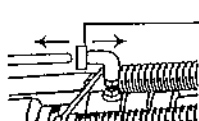
※取り外し方法については下記順序で行ってください。

※ポンベホルダーとスパイラルチューブの外し方



- ①最初にポンベホルダーとスパイラルチューブを取り外す。
この箇所を押しながらスパイラルチューブを引き抜いてください。
- ②自動切換弁を押し、弁内、チューブ内の液をすべて噴射した後、自動切換弁とスパイラルチューブを取り外す。
※普段は、自動切換弁からスパイラルチューブを取り外さないでください。目詰まりの原因となります。

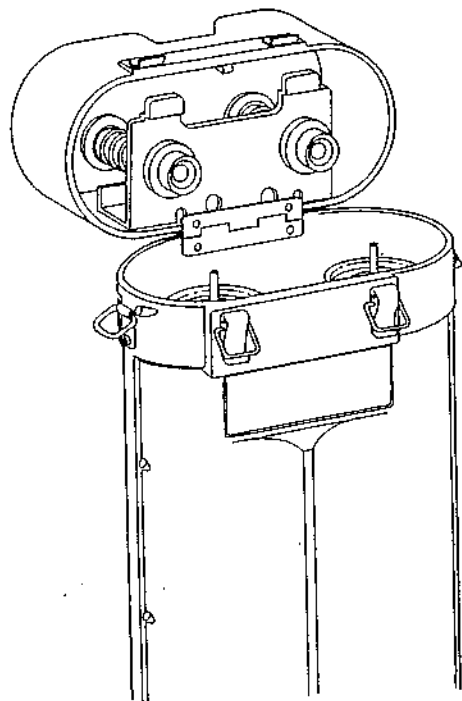
※自動切換弁とスパイラルチューブの取り外し方



このリングを押し込みながらチューブを引き抜く。

5) ボンベホルダーへの冷却剤のセット方法

・冷却剤は、必ず2本ずつセットしてください。

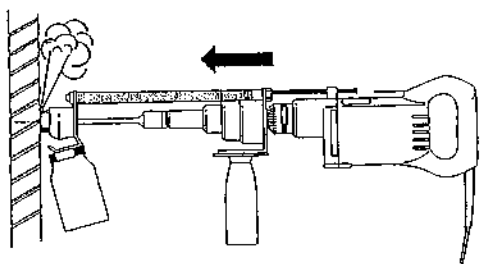


使用方法

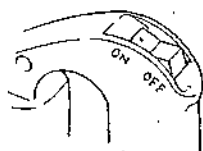
⚠ 警告

電源にプラグを差し込む前に、スイッチが切れていることを必ず確認してください。

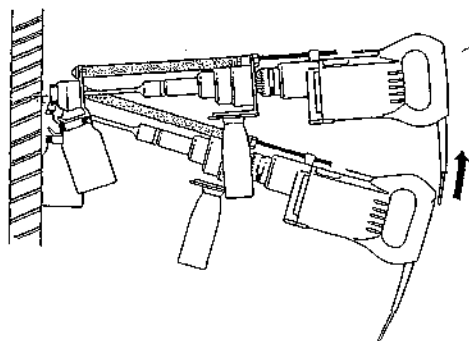
- ・スイッチを入れたままプラグを差し込むと急に動き出し事故の原因になります。



- 1) 刃先を壁面などに押し当て冷却剤が噴出することを確認してください。
- 2) 穴の深さにあわせて、ストッパーネジを調節してください。
- 3) ポンベホルダーが転倒しないようにしてください。高所より落下しないように充分注意してください。



- 4) スイッチはONの位置にすると入りOFFの位置にすると切れます。



- 5) ダイヤモンドビットを押し当ててください。
・斜めに当てますと位置決めしやすくなります。壁面を若干けずり、刃先が滑らないことを確認した上で、ドリルを垂直に当ててください。

保守点検

⚠ 警告

点検整備の際には必ずスイッチを切り、プラグを電源から抜いてください。

・プラグを電源につないだまま行なうと、感電や事故の原因になります。

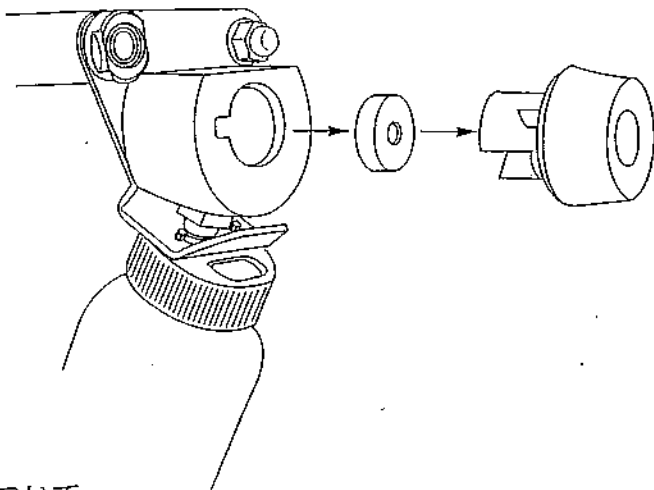
※ドリルの修理はご自分でなさらないで、必ずお買い求めの販売店、または弊社にお申し付けください。

1) 日常の清掃・点検

- ・ダストホルダー部は、作業中、常にコンクリートの切屑が付着します。この切屑をそのまま放置しますと固まってしまい、後での清掃がしにくくなります。作業後はなるべく早く水などで清掃してください。また、スプリングのスライド軸の部分は特に注意し、時々グリースや油を付け、軸がスムーズに動く様に保守をしてください。

2) 受けピースの交換

- ・「受けピース」の穴部分は使用するにしたがって摩耗し、穴が大きくなり、この部分から切屑の漏れが多くなります。この様な時は、下図の様にダストシールを取り外し「受けピース」を交換してください。



3) ダストシールについて

- ・ダストシールは壁面に多少凹凸が合っても切屑が外へ流れ出さないようにするためのものですが常に壁面に押し付けられているため、使っているうちにその効果が低下してきます。時々交換してください。